

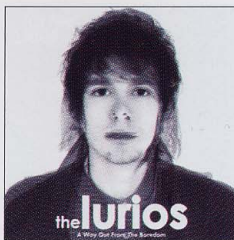


エイプリル
サン・キル・ムーン

Pヴァイン PCD 24203~4
発売中/¥2,520

レッド・ハウス・ペインターズ時代を含めれば、20年間に亘ってUSインディ界で裏番を張ってきた稀代のメロディ・メイカー、マーク・コズレックによるサン・キル・ムーン3年ぶりの新作。アコギの爪弾きを基本としつつ突如荒れ狂うエレキや、よれとしたメロディをふわふわと紡ぎ出す繊細な歌声は、あの人を思い出させるものの、多くの信奉者がもはやコズレックの個性と認めている。トラディショナルかつことん音を削ぎ落としたアンサンブルが、歌声とメロディが孕む闇の深さを際立たせる。昨今、脚光を浴びている新世代の個性派SSWのハシリと言ってもいい。山口智男

★★★★

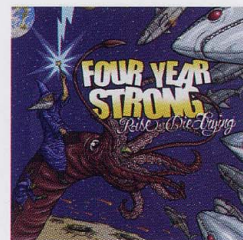


ア・ウェイ・アウト・フロム・ザ・ボアダム
ザ・ルリオス

ファブトーン FABC 066
発売中/¥2,100

VoとDr、GとBがそれぞれ兄弟という、2組の肉親同士から成る彼らは、英北東部ティーズサイド出身で平均年齢19歳。ダンスパブルで切れ味鋭い①からはアクモ的なロックの匂いを、詩的で軽快な②⑧⑩からはリパティーンズの影を(特に小気味良いカッティングと、その中を泳ぐアルペジオに)感じるが、作品全体を通して聴くと、彼らには正統派UKギター・ポップの血が流れていることがわかる。爽やかに吹き抜けていく陽性のグッド・メロが、ラズやオアシスばりの粘っこさや骨太なビートを中和して、清涼感いっぱいの後味を残してくれる良作となった。今井スミ

★★★★



ライズ・オア・ダイ・トライング
フォー・イヤー・ストロング

キックロック EKRM 1090
4月23日/¥2,100

フォー・アウト・ボーイのビート・ウエンツが運営するディケイダンスとの契約が決定した逸材が、遂に日本上陸。ツーバスがドドドドと打ち込むタフでスピード感ある楽曲ばかりだが、メロディは極めてキャッチーで、メロディック・ハードコアと呼ぶにはポップな感触だ。ツイン・ヴォーカルの突き抜けるように爽快なメロディ×ハーモニーを一番の聴き所としながら、オールド・スクールHC風バックギン・コーラスや、時折飛び出すスクリームも全てが急所をついてくる。シンセも効果的だ。今後のメロディック・シーンの指針となるべきアルバムがここに!

MAY-E

★★★★

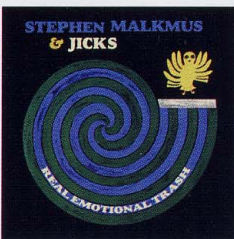


モンロー
モンロー

ドリーミュージック MUCX 1011
4月30日/¥2,200

スウェーデンのストックホルム出身。ロードステイティングハウス・レーベルから06年にリリースされたデビュー作が、2年遅れながら日本でも発売に。ザクザクと小気味いいギターとコーラス、キャッチーなメロで快走するジミー・イート・ワールド等のエモ系曲から、フランツ・フェルディナンドを思わせるダンスパブルなものまで、どれもライブで盛り上がりそうな曲揃いだ。黒シャツにオレンジ色のタイで統一したヴィジュアルやアートワークからは、同郷のハイヴスに通じる「決め」の匂いもする。昨年末に5人組から3人組となった為、最新音はさらに引き締まるかも。小谷育代

★★★★



リアル・エモーションナル・トラッシュ
スティーヴン・マルクマス

Pヴァイン PCD 93105
発売中/¥2,415

ドラムが元スリーター・キニー〜現クワージのジャネット・ワイズに代わったザ・ジックスと作った4枚目のソロ作は、冒頭曲がブラック・サバス級にヘヴィなギター・リフで始まることに象徴されるように、全体にダークでサイケな空気が漂う。ラウドじゃない曲が多いが、ほとんどの曲にどこか騒りがある感じなのだ。その冒頭曲がサビでは一転して「軽やかさ」を見せるのが面白く、もちろんスティーヴンならではの味わいがそこかしこにありニッコリ。ジャムっぽい場面もスリリング、ライブ感/バンド感が溢れるサウンドに仕上がっていて曲も長目だが、冗長さはない。播磨秀史

★★★★☆



アタック
デッド・チャイルド

トラフィック TRCP 24
発売中/¥2,525

スリントやトータス、ズワンといったバンドを渡り歩いたデヴィッド・バホが新たに組んだ「メタル・バンド」として話題の5人組が、遂にアルバムを完成。スリント再結成時のメンバー等、地元ルイヴィルの旧友達と、昔から好きだったこの手の音楽を楽しみつつプレイしてるんだらうけど、中身は至って真剣だ。初期のメタリカやジューダス・プリースト等を彷彿させ、メタルといってもこれ見よがしな速弾きギターが頻出したりするベタッとした感じではなく、どちらかというとエッジで乾いた音なので、幅広く「ハード・ロック」が好きなリスナーにお薦めしたい。山本純子

★★★★